

株主の
皆様へ

第50期

株主通信

平成29年 秋号

平成28年10月1日から
平成29年9月30日まで

【個人投資家の皆様へ】

詳しくはホームページをご覧ください。



ふくしまから
はじめよう。



株式会社アサカ理研

『猪苗代湖の冬』

東西南端を占める福島県のほぼ中央に位置する猪苗代・磐梯。

北に磐梯山、南に日本で4番目の広さを誇る猪苗代湖があり、湖水浴や水上スポーツ、フィッシングなどが楽しめます。

磐梯朝日国立公園の中心地で磐梯山南麓にはいくつものスキー場が点在しています。また、数々の源泉があり、豊富に湧き出してくるお湯。風光明媚は訪れる人を魅了し、四季を問わず遊べるのが猪苗代・磐梯です。

毎年約3000羽の白鳥が冬になるとシベリアから猪苗代湖畔に飛来します。これらは「猪苗代湖のハクチョウおよびその渡来地」として国の天然記念物に指定されています。

(引用:猪苗代観光協会ウェブサイト)



Top Message

代表取締役社長 **山田 慶太**



株主の皆様におかれましては、平素より当社の活動に多大なるご支援、ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに平成29年9月期における当社の事業概況、および今後の見通しについてご報告申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀の金融緩和政策を背景に企業収益や雇用環境の改善が続いており、個人消費も底堅く推移するなど緩やかな景気の回復基調で推移いたしました。海外では、米国政権の今後の政策運営への懸念、アジア地域を巡る地政学的リスクの高まり等により、先行きに不透明感が残る状況が続いております。

このような中、当社の主要顧客の属する電子部品・デバイス工業分野の生産は、スマートフォンや自動車向けの需要により堅調に推移し、当社の貴金属の取扱量は前期を上回りました。また、金の価格も前期を上回りました。

このような環境の中、当社グループでは、貴金属事業において国内および海外での貴金属取扱量の増加に努め、貴金属の取扱量は、国内および海外子会社において前期より

増加いたしました。

また、環境事業においては、主力製品の銅ペレットの販売数および販売単価が前期を上回りました。

貴金属事業に含めておりますレアメタル・レアアース事業においては、当連結会計年度において当社いわき工場に建物・設備を増設し、レアメタルスクラップに含まれるレアメタル回収技術の実証実験を開始しております。国内におけるレアメタルのリサイクルが十分になされていない課題を、当社が培ってきた金属の抽出・精製技術を応用して解決することで、資源の国内循環に貢献することを目指しております。

当社では、お客様への提案力強化により関係を深めることで既存事業の強化を進めるとともに、レアメタル分野の技術開発へ挑戦を続けていくことで、企業体質の強化と更なる成長を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご理解、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

当連結会計年度の概況

【当連結会計年度は増収減益】

当社の主力事業である貴金属の取扱量が前期を上回り、売上高は8,383百万円（前期比7.6%増）となりました。営業利益は貴金属事業が好調である等の増加要因もありましたが、将来へ向けた研究開発投資であるレアメタルリサイクル実証事業での一過性の研究開発費138百万円を計上したこともあり208百万円（前期比7.0%減）となりました。経常利益は、前期発生した為替差損が当期は発生せず208百万円（前期比10.0%増）となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、レアメタル実証事業での補助金による特別利益159百万円の計上により273百万円（前期比20.1%増）となりました。

【業績の見通しについて】

当社の主要顧客の属する電子部品・デバイス工業分野の生産は、スマートフォン、自動車向けの需要が引き続き堅調に推

移すると想定しております。貴金属の価格については、米国の金融緩和縮小、欧州の緩やかな景気回復等により、当連結会計年度に比べ低い価格水準になると想定しております。また、銅の価格についても、若干低い水準になると想定しております。

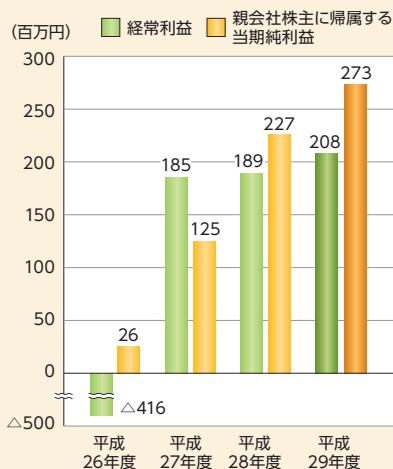
このような環境の見通しのもと、当社グループは、お客様への提案力の強化による既存事業の強化、レアメタル分野において研究開発を進め、企業体質の強化を図ってまいります。

以上により、翌連結会計年度の当社グループの売上高は8,876百万円（当期比5.9%増）、営業利益は393百万円（当期比88.5%増）、経常利益は387百万円（当期比85.7%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は279百万円（当期比2.0%増）を見込んでおります。なお、業績予想の算出基準となっている金属の想定価格は、金：4,350円/g、銅：670円/kgとしております。

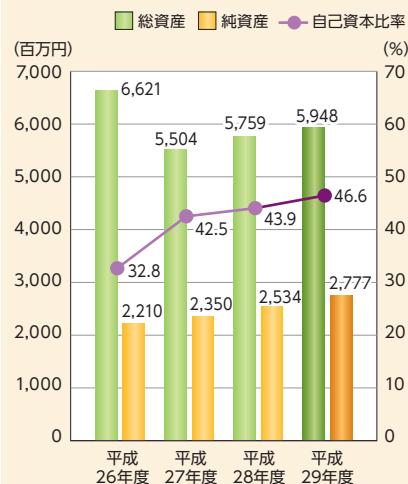
■ 売上高



■ 経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益



■ 総資産、純資産、自己資本比率



連結財務諸表

■ 連結貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

（単位：百万円）

	当期末 (平成29年9月30日)	前期末 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,257	1,328
受取手形及び売掛金	401	315
棚卸資産	763	840
その他	207	248
固定資産		
有形固定資産	3,002	2,733
無形固定資産	24	23
投資その他の資産	291	270
資産合計 ①	5,948	5,759

	当期末 (平成29年9月30日)	前期末 (平成28年9月30日)
負債の部		
流動負債	1,485	1,678
固定負債	1,686	1,546
負債合計	3,171	3,225
純資産の部		
株主資本		
資本金	504	504
資本剰余金	352	352
利益剰余金	1,920	1,685
自己株式	△ 13	△ 13
その他の包括利益累計額	8	△ 2
新株予約権	2	2
非支配株主持分	2	5
純資産合計	2,777	2,534
負債純資産合計	5,948	5,759

Point ①

受取手形及び売掛金が85百万円、主にレアメタルリサイクル実証事業により建物及び構築物が220百万円それぞれ増加し、たな卸資産が76百万円が減少したことによるものです。

Point ②

レアメタルリサイクル実証事業による補助金を受給したことで、特別利益に159百万円を計上いたしました。

Point ③

主な収入要因は、税金等調整前当期純利益の367百万円、減価償却費の224百万円です。
主な支出要因は、売上債権の増加額の85百万円と、特別利益として計上した補助金収入の159百万円です。

Point ④

主な支出要因は、有形固定資産の取得による420百万円、定期預金の預入の39百万円です。
主な収入要因は、補助金の受取額の462百万円です。

Point ⑤

主な支出要因は、長期借入金の返済の643百万円、短期借入金の純減額の421百万円です。
主な収入要因は、長期借入れによる収入の850百万円です。

主なセグメントの状況

■ 連結損益計算書（要約）

（単位：百万円）

	当期 (平成28年10月1日～ 平成29年9月30日)	前期 (平成27年10月1日～ 平成28年9月30日)
売上高	8,383	7,790
売上原価	6,777	6,347
売上総利益	1,606	1,443
販売費及び一般管理費	1,397	1,219
営業利益	208	224
営業外収益合計	35	40
営業外費用合計	35	74
経常利益	208	189
特別利益合計 ②	159	104
特別損失合計	0	14
税金等調整前当期純利益	367	279
法人税等合計	96	56
当期純利益	270	222
非支配株主に帰属する 当期純損失(△)	△ 3	△ 4
親会社株主に帰属する当期純利益	273	227

■ 連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

（単位：百万円）

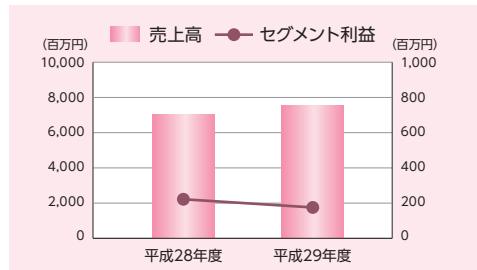
	当期 (平成28年10月1日～ 平成29年9月30日)	前期 (平成27年10月1日～ 平成28年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー ③	200	178
投資活動によるキャッシュ・フロー ④	△ 9	△ 142
財務活動によるキャッシュ・フロー ⑤	△ 299	70
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 0	△ 9
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 109	96
現金及び現金同等物の期首残高	736	639
現金及び現金同等物の期末残高	627	736

貴金属事業

主要顧客の属する電子部品・デバイス工業分野の生産が堅調に推移しました。

海外子会社の貴金属取扱量も増加し、主力製品の金の販売価格も前期を上回ったことから、売上高は7,527百万円（前期比6.9%増）となりました。

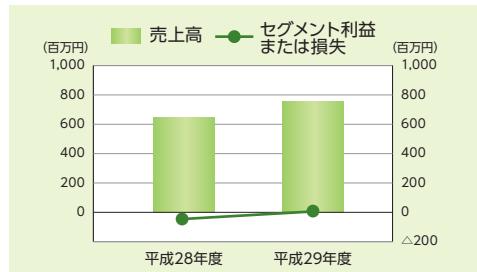
セグメント利益は、貴金属取扱量の増加等の増加要因もありましたが、レアメタルリサイクル実証事業による一過性の全社費用の増加により176百万円（前期比16.7%減）となりました。



環境事業

主力製品の銅ペレットの販売数量および販売単価が前期を上回り、売上高は750百万円（前期比15.7%増）となりました。

セグメント利益は、全社費用の増加があったものの売上高の増加により1百万円（前期は44百万円の損失）となりました。



レアメタル・レアアース事業を推進しています。

レアメタルは電子部品およびハイテク製品、新素材等の成長分野において使われる量が増加していますが、日本国内でのリサイクルが十分になされていない点が課題となっております。当社は、得意とする金属の抽出・精製技術を駆使して、スクラップの再資源化、原材料への製品化技術の開発を進め、回収率の向上、処理コストの低減効果に加え、環境負荷の軽減を目指しております。

当連結会計年度において、いわき工場 生産技術開発センター（いわき市泉町黒須野）において、レアメタル含有スクラップに含まれるレアメタルの新たな回収技術の開発を目的とした投資を行い、その実証実験を開始いたしました。本事業は「平成28年度 福島イノベーション・コースト構想 地域復興実用化開発等促進事業（一次公募）」の採択を受けており、本補助金を活用しつつ、技術開発を推進しております。

現在は、前期に事業化した光学レンズ分野向け製品販売において、供給量と取引先の拡大を進めております。また、新たに電子部 phận向け製品の開発し、メーカーとの評価試験を進めております。このほか、スクラップからのリサイクル技術開発と共に、鉱石からの原料化技術にも取り組み、原料調達の多様化を図っております。

今後も技術開発を進め、レアメタル・レアアース関連の対象品目の拡大を図り、2年後には20億円の売上高を目指しております。



システム事業は新製品を展開しております。

当社のシステム事業は、計測データ処理システム『Mr.Manmos』を主力に事業を展開し、取引先の工場の品質管理のシステム化に貢献しておりますが、新たに生産工場の品質管理に貢献する新製品の販売を開始しております。

生産工場の設備と、作業者を無線送信ユニット Beacon により常時把握する『B-Chronus』では、最も近い作業者へ設備異常と作業指示を通知することで、設備のダウンタイムや作業者の負荷軽減に貢献します。

当社は貴金属事業を主力として、取引先様へさまざまな形で貢献しておりますが、システム事業においてもお客様の要望に応えたシステム開発を行い、スマート工場化に貢献しております。



位置センサー応用効率改善システム

B-Chronus

Information (平成29年9月30日現在)

会社概要

商号	株式会社アサカ理研
本社	〒963-0725 福島県郡山市田村町 金屋字マセロ47番地
設立年月日	昭和44年8月25日
資本金	504,295,600円

事業内容

- ①貴金属事業 / 金地金、銀地金、白金地金、パラジウム、貴金属回収精製処理および販売、各種治具の洗浄・再生、機能部品の再生および販売
- ②環境事業 / 塩化第二鉄液の再生・販売、銅粉の回収、銅ペレットの製造・販売、水処理事業、光触媒事業
- ③システム受託 / 自動計測検査システム、計測ネットワークシステムの開発および販売
- ④その他の事業 / 工業薬品の運搬、廃液の収集運搬

役員

(平成29年12月15日現在)

代表取締役社長	山田 慶太
取締役執行役員	佐久間良一
取締役	佐久間幸雄
取締役執行役員	山田 浩太
取締役(監査等委員長)	野納 敏展
取締役(監査等委員)	熊谷 巧
取締役(監査等委員)	三崎 秀央

(注)取締役(監査等委員)熊谷巧氏および三崎秀央氏は、社外取締役であります。

株式の状況

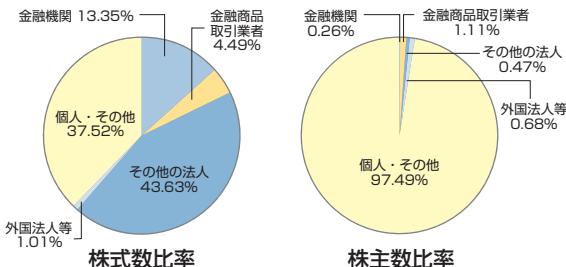
発行可能株式総数	10,200,000株
発行済株式総数	2,572,300株 (自己株式25,025株を含む)
株主数	2,352名

大株主の状況

株主名	所有株式数(株)	持株比率(%)
有限会社モラル・コーポレーション	1,051,030	41.26
株式会社常陽銀行	90,000	3.53
株式会社東邦銀行	81,100	3.18
日本生命保険相互会社	72,500	2.85
第一生命保険株式会社	50,000	1.96
東京中小企業投資育成株式会社	50,000	1.96
白岩 政一	44,500	1.75
日本証券金融株式会社	36,500	1.43
マネックス証券株式会社	29,901	1.17
アサカ理研社員持株会	25,700	1.01

(注) 当社は自己株式(25,025株)を保有しておりますが、議決権がないため、上記に含めておりません。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別分布状況



(注) 上記比率は、当社保有の自己株式(25,025株)を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	10月1日～翌年9月30日	特別口座の 口座管理機関	東京証券代行株式会社
配当金受領 株主確定日	9月30日 なお、中間配当を実施するときは3月31日	同連絡先	東京証券代行株式会社 事務センター 〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL:0120-49-7009(通話料無料)
定時株主総会	毎月12月	上場証券取引所	東京証券取引所
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社	公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.asaka.co.jp/ ※ただし、電子公告によることができない事故、 その他のやむを得ない事由が生じたときは、 日本経済新聞に公告いたします。
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL:0120-232-711(通話料無料) [郵送先] 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部		

ご注意

- (1) 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- (2) 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、東京証券代行が口座管理機関となっておりますので、東京証券代行にお問合せください。株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行ではお手続きできませんので、ご注意ください。
- (3) 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



しづき氷（猪苗代湖）

厳冬期に猪苗代湖畔の天神浜から南側の林を抜け、長瀬川の河口に向かうと自然が作る氷の芸術「しづき氷」が見られます。

これは湖水が強い西風にあおられて、岸辺の樹木に氷着したもので国内ではきわめて珍しい現象だといわれています。

「樹氷」に勝るとも劣らない美しさで見飽きることがありません。

このほか、湖面や渚では流氷や「御神渡り」に似た氷の隆起などのさまざまな氷の変化を見ることができます。（引用：猪苗代観光協会ウェブサイト）

福島の旅が丸わかり!!

うつくしま観光プロモーション推進機構（公益財団法人福島県観光物産交流協会 内）

〒960-8053 福島県福島市三河南町1番20号（コラッセふくしま7階）

TEL：024-525-4024 FAX：024-525-4087